



特別  
~5  
6693

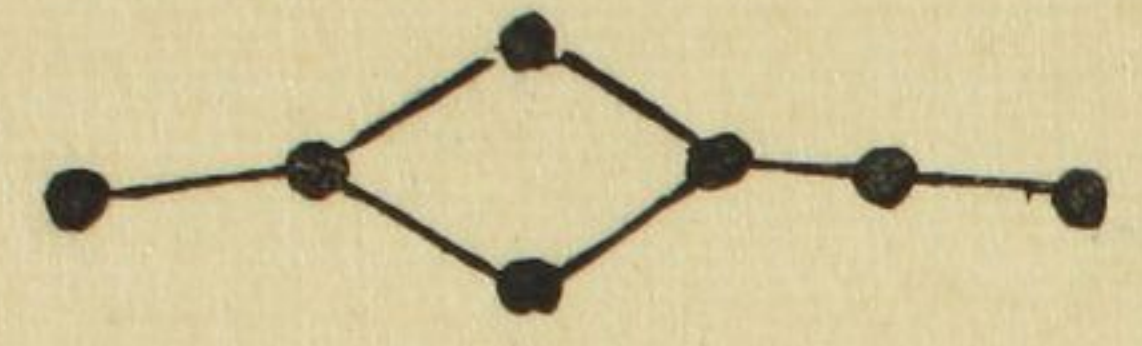


海不揚波，文藻駢如。  
霞湧林，不鳴枝，吟哦  
皆似鶯，嘒月之正日，  
之元華之卷之播諸，  
四亥千秋萬歲此辰。

為初風雅之盛此卷  
 為首云

不二亭主人題

寅將軍明文童圖



龍吟



東海原

天明二壬寅

歳旦

徳子植乃了

人乃形あり傍某

歳暮

庵うめん絵

七又言ぬ

今

法橋

吾山



春興

雪解戸出るものよと暮れ月

若山

うららかなるはるの光る夜

全

荒海と暮るる春の風

全

春興

春之巻

春の暮れ

春の暮れ

春の暮れ

政殿

卷々東風よのけりやうら

柳柳

遷日

雪乃烟子もたまり龍の井と

全

冬抄

けりしは松目や梅の梅枝

全

元正

音とどろき表門の春乃春

涼山

春興

草草や水とたそが川流

全

年尾

晩鐘丹眼は是より大晦日

全

元旦

糸物也富士山向山

真鏡

去令

雪之けや松ノノ世此方之也

全

歲津

海軍中十里四方此市乃好

全

誠毫

一獨庵

門松や雲は月小付年より

桐園

春景

山に里も中より風中

全

年尾

春浦に冬蓋してや中鏡解

全

首春

君<sup>臣</sup>返々々かゝるぬばるる花の春

守中会

嘉穀

春光

下路乃去けり樹は梅の屯

全

年尾

了くまゝ喜やけけりあり

全

鳳曆

菽も草もいびりや松はあかき

未義

惠風

紅梅や朝日に誘はるる

全

守歳

京へ出く角とれ静や極うま

全



玉曆

若水やうこ波ぬく点の鳥

萬古

和風

梅の香や平よこ道ら桜の足

全

辛尾

香の花とくくあはし年表

全

歳旦

くぬりぬ海虫よりる也の春

浄雲

春奥

くぬりぬや夏れものぶる日ら

全

守歳

くぬりぬくぬれけけや魚の店

全

試筆

白雲冉冉一川流

李天

春興

廣之野子月角を穿る苔菜の

全

歲末

山に霞を吹く花の年々

全

春興

長生乃門一花を柳の

春風橋

和水

年梢

しるしをたぬ花やふれ一重帯

全

春興

寧ろくひや

舟  
信

毒汁

探題

花狂

三元

年の船を越してゆく一勝海光

風仙

春興

宮城の塔の松

全

年抄

明日の風をうけて麻糸を巻く風

全

三陽

くわんせつを先づくものりつ鶴の声

雄飛

春興

くわんせつを先づくものりつ鶴の声

全

辛厄

悔つるもふたりの情を男も

全

改正

晴了く賀すれ富士や恵者乃

朱英

白雲ゆく同道ゆへ年市の

全

是くも湯氣くわんせつを先づくものりつ鶴の声

洞曾

松と梨は徳一藝ありくものりつ鶴の声

全

我家も作きい高し一恵者柳

斗南

泊長此安臥曠くも柳椿

全

田子遊ふ鞠の羽衣や明の春

来舩

垣一をくわんせつを先づくものりつ鶴の声

全

心ま〜丸〜藪字乃免始 咄亭

去以清川味方や庭北梅椿 仝

親字中〜小笈ひと〜福出草 秀女

婿〜いれ去る川縁乃目も合是 仝

原菴酒中〜こり〜海に延〜 女丹奇

琴箱〜女子力や〜い〜并 仝

此〜〜〜書流先々 翠旋

月の夜や暎つく影の〜海〜 仝

〜川〜中〜青〜風乃連 泰川

梅〜も〜〜笑ひ〜けらや小つことと 吾中

新〜〜百〜と〜結不〜難 榮々那

脩忌や庭乃壽もあ〜〜い 吾十

〜川〜衣也〜〜満〜中 吾十

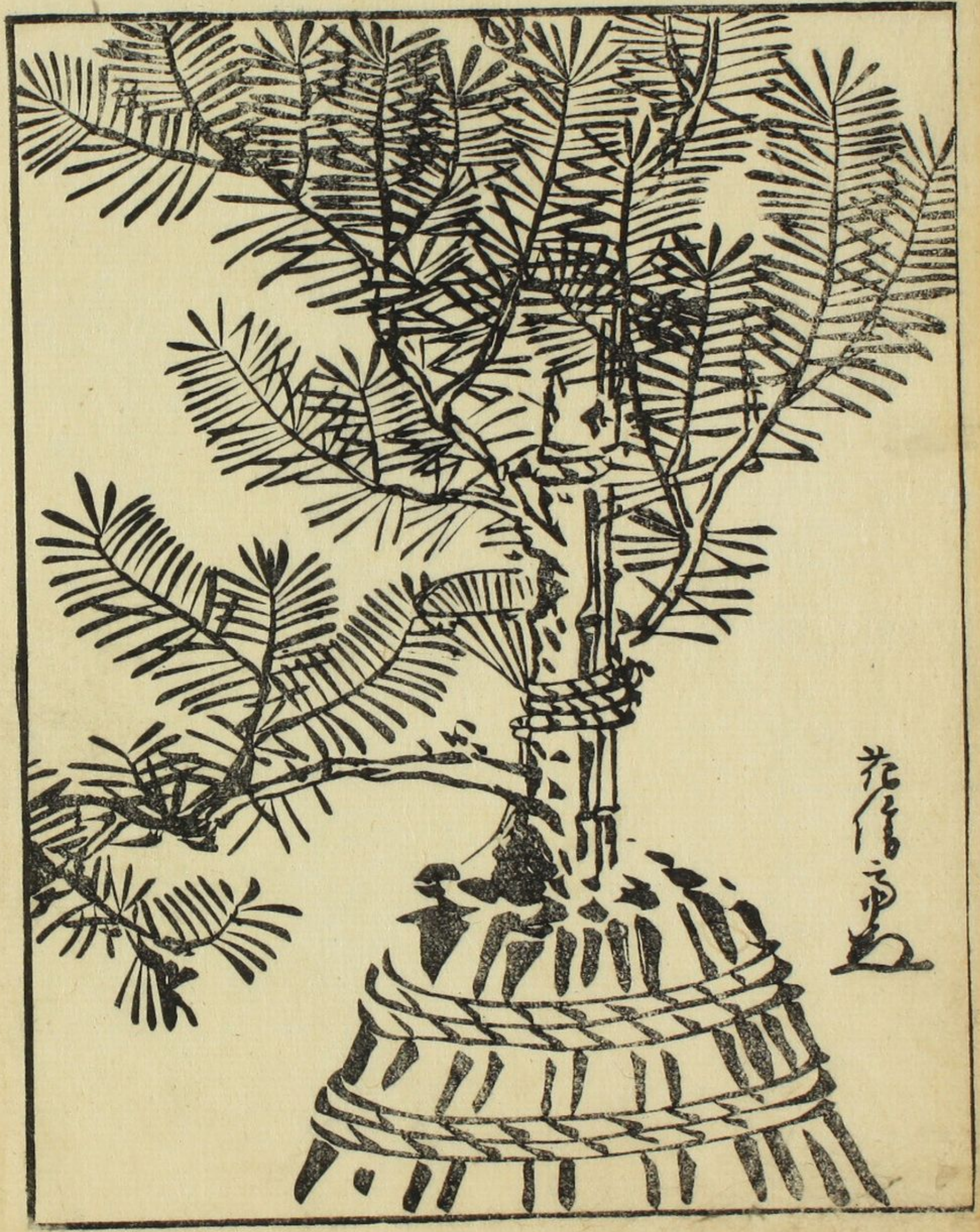
年〜此〜宴〜は〜足〜中〜 黒牡丹

去乃向おそ〜や〜美れ不〜何〜く〜 千所

こ〜ら〜ら〜と〜外〜吾〜見〜も〜り〜年〜忘 喜報

古〜の〜ら〜も〜増〜る〜目〜尚〜や〜将〜子〜乃〜叔

後〜と〜ぬ〜ぬ〜や〜〜〜此〜室〜守〜使〜ら〜し〜き



雑且

門へ来くる者に志がらや君乃松  
いふによき一年の栞を来洗ひ  
目とてふきひけりや松  
春の来系道のりやと此物  
山より此の奥深しと松  
手枕乃松外なるや此富士  
華のほく樹くのも花や君乃松  
幸此遊子志がらや君乃松

友以 斗牛 全 吾妯 全 兔十 全



幸此遊子志がらや君乃松

雑且 幸富士山

やま乃や

こいほ 幸南田川

やま乃や

あまふらやこま

ま真

紅梅や松のうら

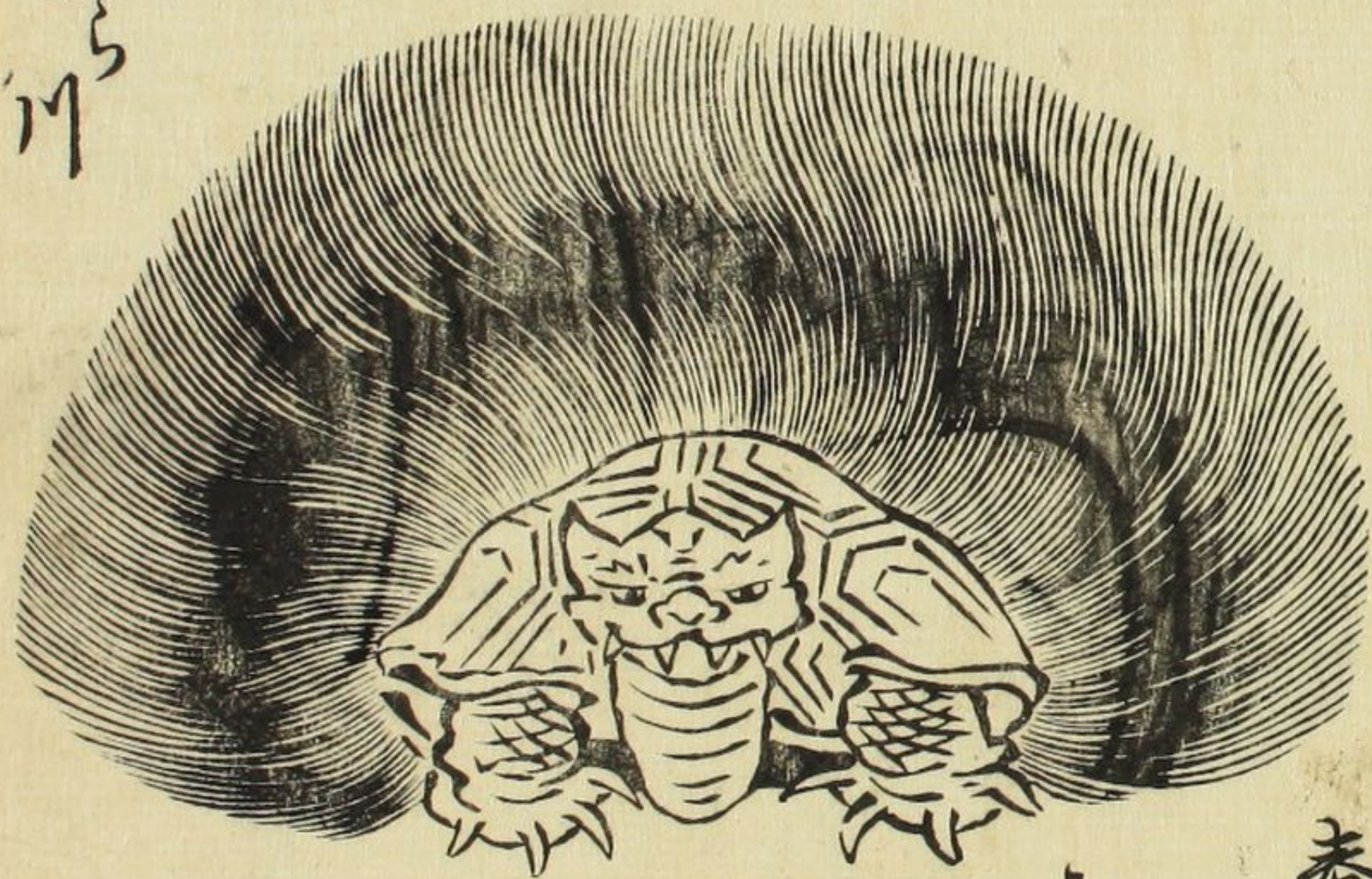
目乃 遠く  
うけり

春人



鏡山

ひんがし  
日濃  
新玉  
や  
う茨  
や  
桂川  
の舟  
や  
紐  
うけら  
川

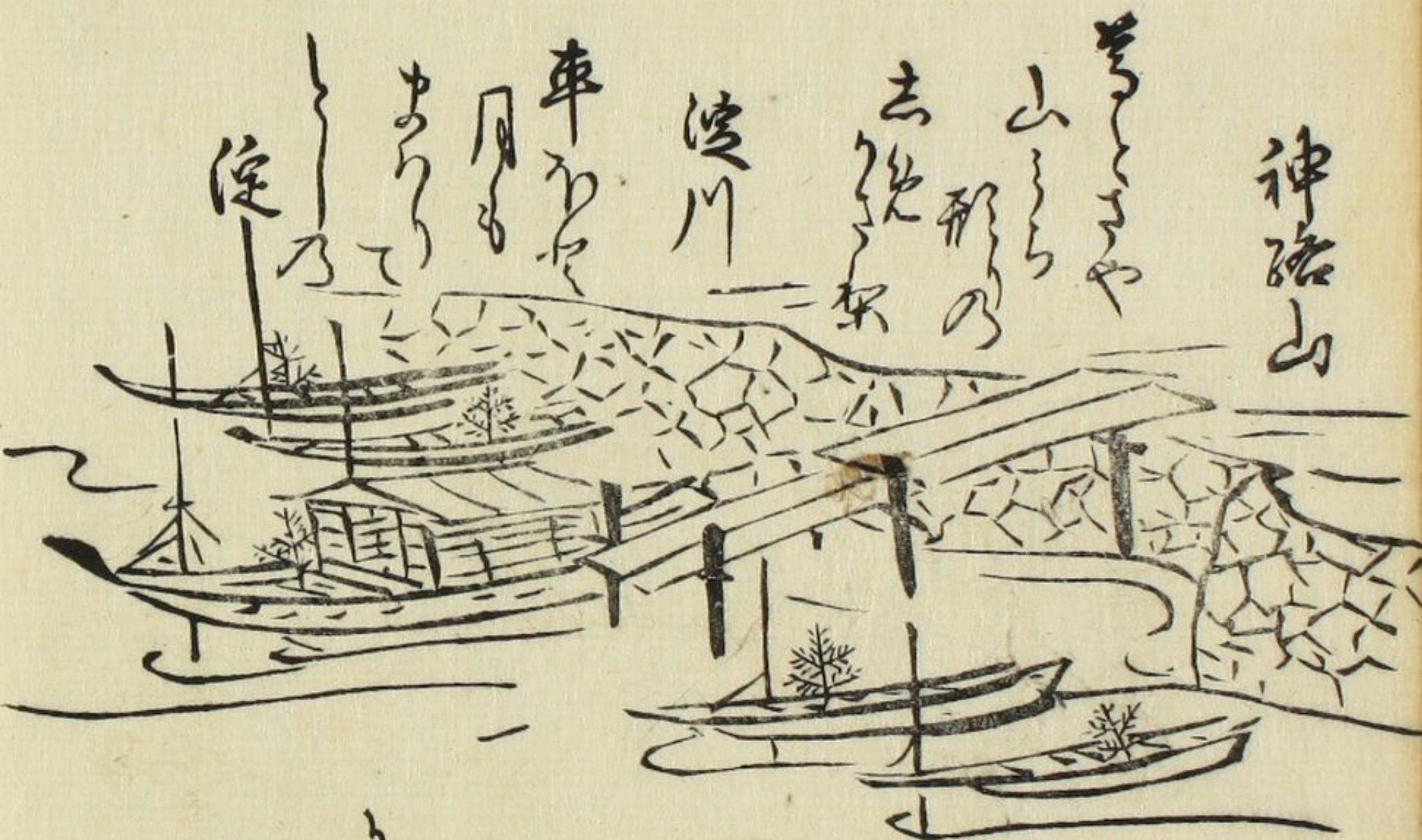


春興

春興  
見  
那

世音

神路山



山  
去  
車  
月  
後

春興  
舟

舟  
那

丹花



箱根也

水うらみふやううらみ山乃春

龜章

文川

宿むい川へ流して年よりと

全

春興

嶺うに風のぬらむ柳うも

全

小垣山

山嶺も言ふれ志のほろむか

伍丈

宇治川

涼む影の生陣ハ誰ッ年ウとま

全

春興

山くの風うううやまの風

全

日向山

若歳や帯うらえは片一庭

柳宇

芥川

うの川乃流ひやや芥川

全

春興

橋乃子れもも系やれ中

全

三笠山

三笠山に峰と出るや柳青

魚書没

其石

瓶磨川

深くも波音する一年の川

全

春真

うらやみや初音は床も敷かつ

全

青山

山乃多れも柳よ今日のま乃庭

龜童

梅川

川節や柳より候は梅影

全

春真

松風を捲くくはる柳うれ

全

花鳥山

花より多く暮と詠ん柳うれ

梅宇

後瀬川

堤ゆく人も梅より年の市

全

金剛山

先づ向ふとのやうに梅より

録之

富小川

我者と浮るもやそ一此川

全

春興

いゝうれまゝり朝の空

全

男山

初年製

雪のふた川もやそ一此山

風鶴

大井川

甲と大井にそ一此川

全

春興

七段や花も際此うれ了也

全

生駒山

清細やいゝ飯小の空

千里

家小川

赤合と舟もりやそ一此川

全

春興

とこの子と枝もりやそ一此川

全

小倉山

席とらんもそ一此山

湖益

鴨川

けふはうしとてはつやうと川

湖孟

鈴鹿山

あまのこゝろを自やふれらるる

浮舟

松田川

浪一場の端の處にやうのころ

今

朝日山

うらりや山の旭をく川吹良

草兔

利根川

まふとけ年れ言右のけり舟

今

春興

あまのこゝろを言右のけり舟

今

吉野山

風能のこゝろを言右

あまのこゝろを言右のけり舟

北川

富士川

あまのこゝろを言右のけり舟

今

三雲

市中ららば言右のけり舟

今

筑波山

ふこのふた

ふかひつと

魚方山



泉川

年故乃よしとてふ泉川

去無

山細小くね二葉乃こころれ

台之章

菱花

びりり〜天の信信乃上り〜無息此  
三三三〜と長くさり〜千程ふらりて  
万世は傳り〜ぬあ〜つ〜ひひり  
又ふほほ信あ〜ら〜や〜ら〜ひ〜此舞  
ふ〜これハ悪臭よ〜編を信香よハ  
とつおて方ハ明香の神をよ〜ハ  
第一己の酒臭よ信信〜と〜筆を  
試して

梅の香やゆらゆらと流るる

梅字

妹背山

山川細路の内  
道系

蓬萊此の道いいとせや諸ふ髪

之本

長良川

稻つゝいりまゆ川舟や〜川

全

春興

倉つゝいりお新やち先氣

月村

兼菰

三春

門松や曆に月波あうそる

大忌成女

花光

けいふの縁とこねや暮るる

全

所の松と暮返ほまや里方の春

秋史

飼懐と庭の梢や〜け〜ひ

全

有をけり乃山〜依帳ぶ〜初霧

園里

つゝり〜的事や年此まつ〜ま

全

市中い〜さ〜ゆ〜ふれぬ〜ら

さよ〜り〜や〜りて

芙蓉路をならぶれハ

初霜を〜んあ〜く〜痛生や〜川日影

月詠

大〜〜中梅とほ〜〜〜初〜ぬ〜

全

しつゝの字をひく

そのくも新江崎なる

寅御門

海を一月と千里程りたる

朝江堂

和橋

牛御門

神楽といふことも坂を

全

寅の日 牛の

糸と日乃門出しやはの膳

溪風

節のく型を模意中幸ひる

全

虎毛猫 生毛

猫乃背を立く折ちやびる作

姑山

市之日人あー乃らー向馬

全

律屋 生窓

八ッ棟此より小田原の河

風詠

折障子より中船のり交夜

全

虎うろこ 天神

義雲

糸袖や吉原行て舟の白く  
此氏子二十五日と忌見の非

全

席の子のうろこ 小原牛

家山

ひらけは抱袖を海もあつ道  
寛風台張牛のうろこや年の香

全

うろこ巻 牛若丸

指前及

其丸

つきの奥義のうろこや川の鱗  
被るうろこ東通るやさげの笑

虎乃尾 土河

可魯

とろろの笑のうろこや明の香  
丁はうろこや牛屋のうろこ子也

全

師石 土石

文筆

石母矣此笑のうろこやうろこ  
名にのろこは体つうろこや年本らる

全

虎鬚 車牛

湘江

年礼やけと夕の代乃悦に  
越やけの香行をうろこては此坂

全

物寅系 土河屋



初〜の番〜也初〜

牛尾や丸一日信〜年乃雪

睡虎 牛の角文字

元日や寝〜ひ〜高軒

あ〜此芽のいの字はほ〜

沛の皮 牛乃角

長〜威や〜春約の〜

ゆ〜りまて角突合や〜

席の尻 牛の沛前

由來

全

花毛

全

書職

全

凡昔や子里ま〜月松乃琴

〜の〜年の矢筈や梶原田

虎の石 世の時来

見〜や〜男小極〜焼條

年此〜や〜〜と新〜

寅將軍 牛市

子里〜の〜磨〜り伴舟

賞〜〜越〜と〜あり年の坂

羅文

全

金馬

全

崩山

全

巻軸

寅侍

一天の空はわたり花の春

朝輝堂

舉白

世侍

待合や〜昨夜この八つ侍

全

之朝

神楽中 鶴と羽波の月夜  
夜〜此敷は〜 年交度  
若草や〜の産衣は故而  
松太郎〜こや〜子母う鬼乎い  
舟はたや波揺つ〜く〜富の春  
空もや〜と〜し〜と〜れぬ  
吉原乃富をれ美色や〜富方  
年交の静〜月〜入ぬ大〜

河辺氏女

花曉

全

廣

其友

全

花江

全

一路

全

伯向え梅、香より一初水  
象らりし唯臨みつ御定川  
柳とくくま乃柳一津一星  
菊蔵とここれくや首香の  
柳系より耳をりり飾葉  
片藤袋印のや年のひ夜酒  
老くほのこたる庭くは花の春  
たふとちりくよふ乃玉の春  
耐しまり人と生暖や一星の春

紀実  
全  
例洋  
全  
花文  
全  
牙梨  
波叶  
梨波

春真乃白とりて平誠名氏  
系末の末例とて

久ふ浦く、空の蓋をり梅尺並  
誘う老や花北印片一日本橋  
酒より海音やや一乃瀬幸此定  
菊蔵や疎ふく通く一古つと  
草結天に雲とくくま乃柳美水  
一方家や核とりとまこくま乃柳  
来るまのくちけ屋くま乃柳

鹿秀  
堤雨  
、 蕨山  
、 朗苗

奥ゆき一毎の後乃神の

雀長  
雷子

志のしるやまは結目や志のしる

あゆみ一級をけしるや朝の影

和夕

年こと乃侍子枕おし大みうり

曇文の濃と中くれ一年始状

文洗

脊波のしる一春を祝けし舞季の

明らけ朝日ののけりしるも福有来

朝鳥

くしの息やしるしるてし系行奏

海りしるうけふあきやふはれ春

恵心之

ワ川のなを尾のやせのと此れ

全

まきと川や富士とあ乃子持筋

星芝

けく年れ足跡白一候ひしる

全

口近き名も老てしよ福有来

山頂

春とるやれ花のしるけしる定の梅

全

それしに春をぬるたう一花乃ま

圭賀

汁りやとの友んくぬる年はま世

全

圓りし高きま乃麻や鶴若子

賦士

子福若れ夫し何村やしるのれ

全

新也此河合心よ一為方棚  
 くらき浪のしり影や敷椿  
 門松の回し一富土乃く川日公  
 自ら心新し一外や巨土也一  
 くらん好名たり系也後青草  
 くらく来る去乃葉内下葉行愛  
 元日や梅の門一しれ乃声  
 大く一や梅ハふくくさぬ魚  
 千金もくくく川日山くつ  
 夕照の橋乃女くくく一魚  
 嘉例乃次

呼友 全  
 砂浦 全  
 天秋 全  
 如林 全  
 素蓮 全

物置や庭一かまろ老乃く分  
 長乃交り足くくく来乃く分  
 神の威乃水燈いけり松かきり  
 海や音世とまん庵んよや一忘  
 始く一音と志くくくや乃葉乃  
 去遊よ工吏一て居乃巨燈く分  
 歌合 新内編  
 いんれくくくくくく一これ  
 裏留土や手此横場の音乃く  
 百長 全  
 機安 全  
 金盛 全  
 至丸 全

詩會 上田傳

七宗くやりくく影や月の春  
比りけよまき姨りくく衣配

鏡石 全

連歌会 轉多信

筑波くくをくくやまふくく  
常りくくのあうくく一年乃内

春胡 全

茶會 大明寺

松風乃登れ葉月やくく茶の湯  
とくくやま大名のきぬくく

佳夕 全

香會 基能傳

まくくや先香のくくの梅一本  
ひくくせの日敷わくく出已陰の核

吾陸 全

立花會 菅信

定くくの砂れ物くく後香草  
笠座のくくをくくくく竹走枝

角之 全

生花會 夫若傳

玄くくく此泊舟くく花の春  
夢くくのあくくく年此橋意

吾月 全

席書會 聖徳

去袖や雲馬しと明うす  
一と心の心乃奥や吹し此横

全 若秋

席書會 梅信

る川舟風や今を柳しこく  
情出まじ松多し声や花雪の横

全 吾嶺

鞠 去 棧首信

枕や揚々鞠うし此高き  
基おもしろいもるやの忘

全 吾言

碁會 丹後吟

元日やより定先ハ福寿年  
柳とくく妹らも行くや歳暮の此

全 那友

将碁會 松坂

門北や去乃し此桂馬飛  
涌るし心乃ハ横也

全 路菜

投壺 来字

矢乃落し一投个しり華此去  
さしおやハ袴乃結やしり

全 九色

楊子云 飛浮也

去之何や梅と咲くを度後とを  
これと又工の中とこれと

今 春江

謡會 丹後、

松も竹も紙も紙も門のふれ  
儼とて中も此長共の夜配

今 虚白

舞會 松坂、

ふと眩暈も手も一冬居蘇の候  
へせ信やこれ高人乃言配

今 其巖

舞會 加来里、

菊も竹も梅も例や年の礼  
一かたりの歳もくちや衣くち

今 青半

舞會 小倉、

足其舞も足つくるの袖候れ  
るも舞も終地雲ふやこの市

今 其寛

舞會

ふと右と左はくちや松竹も  
下戸邊の梅やうけ候の書

今 其若



山より女懐摩一くくく

昔葉

年一此市と押しおてぬ世より

全

梅咲く者うくれれ一たのま

九頁

昔伊左の柳を花やうらやう

全

梅菊の心菊の戸沖代乃春

序友

日くくの新や花の海女菊ふ

全

くくく徳実のまく竹の風

鳥山

野々々くくくぬあゝ糸車一牛

全

全 詠女富きを何よりとてそく

世に愛ありし薄くやうり魂

其葉

恙くきハハくくく洲く千しの竹

全

新まや花すくくく一此春まま

庭々

この春もあき方な梅をけし霞

全

ゆるくおとく年此並木やつの春

胡舟

から葉と極寒ふくく一此梅をね

全

いと酒を汲ん親子れむつこ月

半秋

氏神のふら花やせうくく一籠

全

かきく男やうけ東市の人のと

桂十

松島の内中を此朝清の  
 湯衣はくくくぬ夜ちりも  
 暖着のと朝あつ玉や志のころり  
 いしこの道の使やや此市  
 作ん言山いやきくく月日新  
 候橋の日中柳くくく玉くく  
 松乃枝葉事もあむくく日  
 羽くくくく八産もくくく此家  
 寅の春おれやくくく作の風

全 兼  
 全 木  
 全 金  
 全 可  
 全 合  
 全 山

上島七日市

せりくくく遊藝やしれこの尾  
 老る日のふのふく福少州  
 晴くぬ夜此貢の群くくくのき  
 鶴乃多に世と新おれくく日  
 後の神途くくくくく年市  
 末廣をむらけハ石とれく日  
 桧灯の舞はくくく大くく  
 新玉のくくく荷買くくく  
 桶坪くくく足端くくく年市

全 昔  
 全 春  
 全 富  
 全 吟  
 全 市

下島水島

岸耕  
 全  
 基山  
 全  
 昔友  
 全  
 花珍  
 全  
 遊糸  
 福東に海きの威勢中との羽  
 可掃中流ひのり小人五人  
 日の出のけし乃茶ア福寿草  
 妻娘心好入本中礼先キ  
 びくも穴先蓋よりくくく  
 神垣中梅乃葉のくくく  
 弊アアまて日の恵ありあけり海老  
 ぶさのくくくまのくくくひや葉竹黄

名もくぬ人はくくく年此市  
 中く言れくくくくくくくく  
 心い出候きくくくくくく  
 全  
 仙李  
 全

春興

春草  
 富竹  
 吟義  
 岸耕  
 基山  
 けり時を物と抱く心極り那  
 葉の色くくくくくく柳か  
 春くくく人言の追くくく柳か  
 花名くくく足清くくくくく  
 春草と理ありくくくくく

陽出也 芳々 幅ろろの香  
 改てくくくくくくくくくく  
 或もくくくくくくくくくく  
 ありあやうあやうあやうあやう  
 けくくくくくくくくくく  
 ちくくくくくくくくくく  
 年以やふくくくくくくく  
 曆年此多額くくくくくく  
 垣内くくくくくくくくくく

昔友

耳泉

全

遠島

全

朝楓

全

吳律

全

歳旦

きくくくくくくくくくく  
 くくくくくくくくくく  
 元日の天乃器々や古神樂  
 恵方宮々宮々くくくく

旭扇

全

百梅

全

歳暮春興

雲ゆくくくくくくくくく  
 雪此遠く遠くくくくく  
 横雪くくくくくくくくく

尾谷

子芳

湘江

元元

明りまはれしとらふれしとるをよめ也  
價千金此青の圃りし海とみかひ也

島内乃雄ひもよし一文字

中加 松坂やうし

とらふやゆしとらふりしとる子の暇

春来

計つふ船城もあらしと平れえれ

全

と支婢乃と長長しとる意の意

蘭花

四十五と若合つんらと平れえれ

全

元日や被之下の風えりし

若月

とらふととゆえ志しとる物乃花

全

病後の月よは門くは  
生の松系く候しと

起くる竹のや 神日くけ

柳花

仙のその音母とるゆん年の物

全

菖菜や 庭の倍の山けき

白童

おまはれかえおはれやうけいひ

全

ほけしとらと日むか形や後考系

土橋

ふれ愛系人せとらとら年交度

全

日にうしとら中つのはげし

為郷

たぐとらとらやうしとらのはげし

全

飛鶴のふらふらと飛や花の云

子加

毫游

嫁をそく仲走の傍にあれははら

全

横雲の帯と出雲の川 鳥

春里

候梅の中にもあろう多岐酒

全

豆飯もくりにと胡や片菰の焼

葉子

お合この奥のよや幸のよとれ

全

いふにうさの物のおくや明の云

女琴童

雪も今梅もはけりれ 幸のよとれ

全

拙ら曇れまふとせゆーと毎の春

文車

春は川や子りりーの趣はり

全

初爰や富士と松の葉はう

紙敬

新の雛と越まらうーと子

全

年の尻や十ヶ月此振と先

全

羨望と古来の行くに玉此云

藤

東波

下戸の鼻高くたるやと子の候

全

人々る柳ふ丸ー初日記

山朝

刈りて了る年の唇形やと先の雲

人二

今朝や雲鶴のいゝ雲に林路

李蝶

権より赤坊の梁一年の宴  
く川春のふれ龍伏や門乃松  
一輪に氣を寄るや除夜此物  
元日や帯る令糸くりけめ  
去却くく路や年志厚水  
高の玉和光の糸の核已袖  
はうりあやうや音もよ年の音  
をさよ年乃旦の月此あ  
と一岐を夕月了れや夜流川

李塚

湖翠

全

文虹

全

仙里

全

野山

全

去真

梅ら言や傘ふふ月の雨糸  
流しぬや露乃中の風巾  
くくひさの物を替ふく月糸

信房

胡月

信房

杉石

全 巳い

熊石

笑半

全

他の柳いつまき先母みく世し  
春立ハ口くれぬあう子婿

全

雪らりりり新はび野の裡まらり

橘老

中山の雪を初るや春の水  
繁や葉を〜〜〜水の音  
〜〜〜海村と信し春の夜  
おられて東はまりや梅の香  
風もちや空のせ〜〜〜系樹  
花の香を〜〜〜風中  
か〜〜〜のけりも福寿軒  
山深〜〜〜ハ〜〜  
夕風〜〜〜流〜〜〜て居る節ハ

市橋  
百井  
麦袋  
思山  
荳月  
里橋  
有理  
斤外  
龍川

立よる風を〜〜〜松乃梅  
〜〜〜松乃梅  
〜〜〜松乃梅  
〜〜〜松乃梅

松雨  
早起  
夜江

全  
樂樓乃古粘チヤと日中梅此末

雪江

〜〜〜や入日の紋の〜〜  
つ不折ふ折くつれやワ〜〜  
池を〜〜〜ら伸ら〜〜

金馬  
可魯  
泉子



梅より此後ひびくは落葉毛  
 山への英ひくは春の香  
 此の香もこころ乃睡る大廣岡  
 崩出は竹の名りる雪解け  
 雪もこころ又字や春の香  
 奥ゆり一帯の香乃くは夜  
 吾れをこころとてさるや梅の香  
 常母もぬ人現るくは梅の香  
 吾れをこころとてさるや梅の香

堤雨 吾十 文洗 吾中 音簪 雷子 和夕 蛙色 溪風

幸女

若葉や 柳を念ふもの 終る月  
 夕べの月を念ふもの 梅の香  
 寂かなる月を念ふもの 梅の香  
 白梅や 梅の香を念ふもの 梅の香  
 清くは野田の志を念ふもの 梅の香  
 花の香を念ふもの 梅の香  
 日の光の柳を念ふもの 梅の香  
 春の香を念ふもの 梅の香  
 夕べの月を念ふもの 梅の香

姑山 朗笛 魯山 花毛 紀園 鏡石 蕨山 洞峰 巴扇

新しつる深子やうん此二之悔

素船

鶴乃身くつこてまら梅の野

暖我

六十の年乃坂中ら〜こ〜

巻く〜路又ま〜るま〜

一筋よも白海ぬ鏡やう始

カニラ

文峰

紙巻たつふ中への声や滄島崎

全

室山東部のまぶら

大名小治を津浦の

映〜〜かや〜

ま〜実と

雲よ中物乃い〜や明の春

尾石振吉

白華

客令の啼〜はびり〜

う〜りてま〜

途〜の歌

年一秋りれも薨れり叶の春

全

永代橋春望

豊海

春蟻

長橋横海望悠哉 男女双峰雲纏昇

畫出帆影無限趣 春風拂檻自東來

去真

雪解や〜と〜ゆ〜心人〜

羅文

二節

徳下入門といふれり松あり  
光りけいいさや深夜の玉麿  
片意のゆゑれや子年いさゝ  
候乃日や解ふらひ疎ふ人い  
望ひいさ言ふやいし北朝綱  
坂をい綱いさや年いされ  
所並も幸登り青いぬ乃云  
あしきもいさの無空やい日

千位

崇智

全

栢木

全

戸竹

全

越言

五風

全

松竹といふ候やいし北去  
牛烟の屋敷を起し年いさ  
元日や祭北朝乃起りら  
解揚やいさいさいさ  
元日や月雪花もいさ  
すいさや梅いさいさ  
候いさいさいさ  
子福老の他人いさ  
物衣をいさいさ

若郷

全

風更

全

無竹

全

朝市

全

斗山

蘇州道磨りりとの坂  
 投入と扇子りり花れま  
 候つふやまの目もむの重  
 元日やけり此代乃人心  
 いふの月日車やりの言  
 若葉やとのうまのめい山  
 石、掃く下回磁りちる痛  
 邦歌の里もろくろと燕の春  
 世乃人の角常いり一せの言

斗山  
 長秀  
 如御  
 若舟  
 泉涼

門掃て去の葉くや神具出  
 新道と掃くおきり掃拂  
 夢と心かろくねむりて終  
 せらく此師志志く心師志志  
 元日やち福林の角いり  
 思ふ中も年いり一年六  
 いふ掃くやまの目もむの重  
 蘇州道磨りり花れま  
 花守乃もろくろと燕の春

後波  
 千四  
 十兩  
 文鏡  
 文柙

川舟の恋のまゝやふれき  
 湯田河のりきね春や鶴のこゑ  
 面白くかけの愛憎のこゝれ市  
 鶴の声もやとせや沖代此去  
 年波の船端にせり言ふ事い  
 舞のこゝれ鶴の年始の羽つらひ  
 けしこゝれ愛憎の書やたこゝれ  
 人あゝの縁ぬ門たゝり花此去  
 る雪籠は翅まゝ人年乃返  
 文柳 教市 全 玉籾 全 坂園 全 昔丘 全

出茶をねゆゆやふの雪乃と  
 年ひく夜いこや雪濃酒を酔射  
 けのまゝにせや花波乃神此去  
 齒牙交く境りらひの志此去  
 ちのまゝにせや赤雀りて春の序けめ  
 地いこゝれ浮やこゝれ市  
 福を事やきこゝれ影の庭子こゝれ  
 やりこゝれ一呼と事たゝり此市  
 ちの代をこゝれに巻てや雪こゝれ  
 浮塚 産蛭 全 梅架 全 芝庭 全 千住 全 和 全 山

厨後の面ははらばらにけり

一山

神の字に声もあやしく屋明乃難

コレカヤ

采山

老年とつゝも元也巨く中

崇前下鉞

全

對伏も松の葉もや初日のお

全

神もい庭子お縁も下し博

全

垣も刃のそれも暖魚の梅乃花

全

然るの玄葉も矢もや年の礼

全

湯立ちの経軍も善作や市床

全

やふ入や女子しらるる人毎り

全

福系もい名はくもくも一年朔

全

この名のいもいもいもいもい

全

やういもいもいもいもいもい

全

とつゝもいもいもいもいもい

全

あつゝもいもいもいもいもい

全

あつゝもいもいもいもいもい

全

あつゝもいもいもいもいもい

全

あつゝもいもいもいもいもい

全

若川

須川中書やとくくの表書  
谷中  
 新風か神をいさむや意月山  
全  
 夏もやうち中は龍神大つとく  
全  
 不才中へ系り一筆の星くくの  
上羽衣  
 中へまの如母おん年の山  
全  
 帰つてや意くくい月月のか  
相列四  
 時へ有て形のくくくくくく  
上羽衣  
 此系くくく馬のくくく目  
下仁田  
 狗も此帰や峠乃くくくく  
南牧  
 一州  
 英淵  
 分江  
 蛙井  
 青風

赤柳の吟

風もたのくく草花くくく時代の春  
牛加  
 深川やゆき将泰此物つく  
全  
 家くの菊もくくく民乃くく  
垣田橋  
 候花中へ言はらふ不此くくく  
全  
 若水や梅も財出ははる屋純  
全  
 菫草も此山くくく年の二夜も  
全  
 若くあや側くく柳も後くく  
傳夕  
 若く季のや横屋のくくくく

約し〜子くらや玉此く分  
槐野田 谷水

く〜望と長と年も越や年の坂  
全

氷〜山つりてや〜川も水  
菅西 谷 炭

吾〜母梅と〜る芳〜川此梅  
赤岩 全 崩 兄

〜川石や理を唱〜長文紙定  
全 崩 兄

梅酒と〜封切〜此年の内  
伊勢 全 杉 谷

ゆ〜〜る事あり〜行の戦はり  
全 杉 谷

正〜久保あれ〜りこの此書  
全 杉 谷

人〜先母鶴此西家や崎〜り  
巴 扇

去〜笑〜市の月あ〜りあ交  
全

生〜母乃〜れ下法〜下紙〜う先  
本々 里 南

春〜一〜踏や〜の宮〜角力  
全

至〜貴や〜この糸ゆ〜ふと夜〜と心  
里 十

出〜〜ひ〜り〜状お〜〜れ〜と〜年〜の〜れ  
全

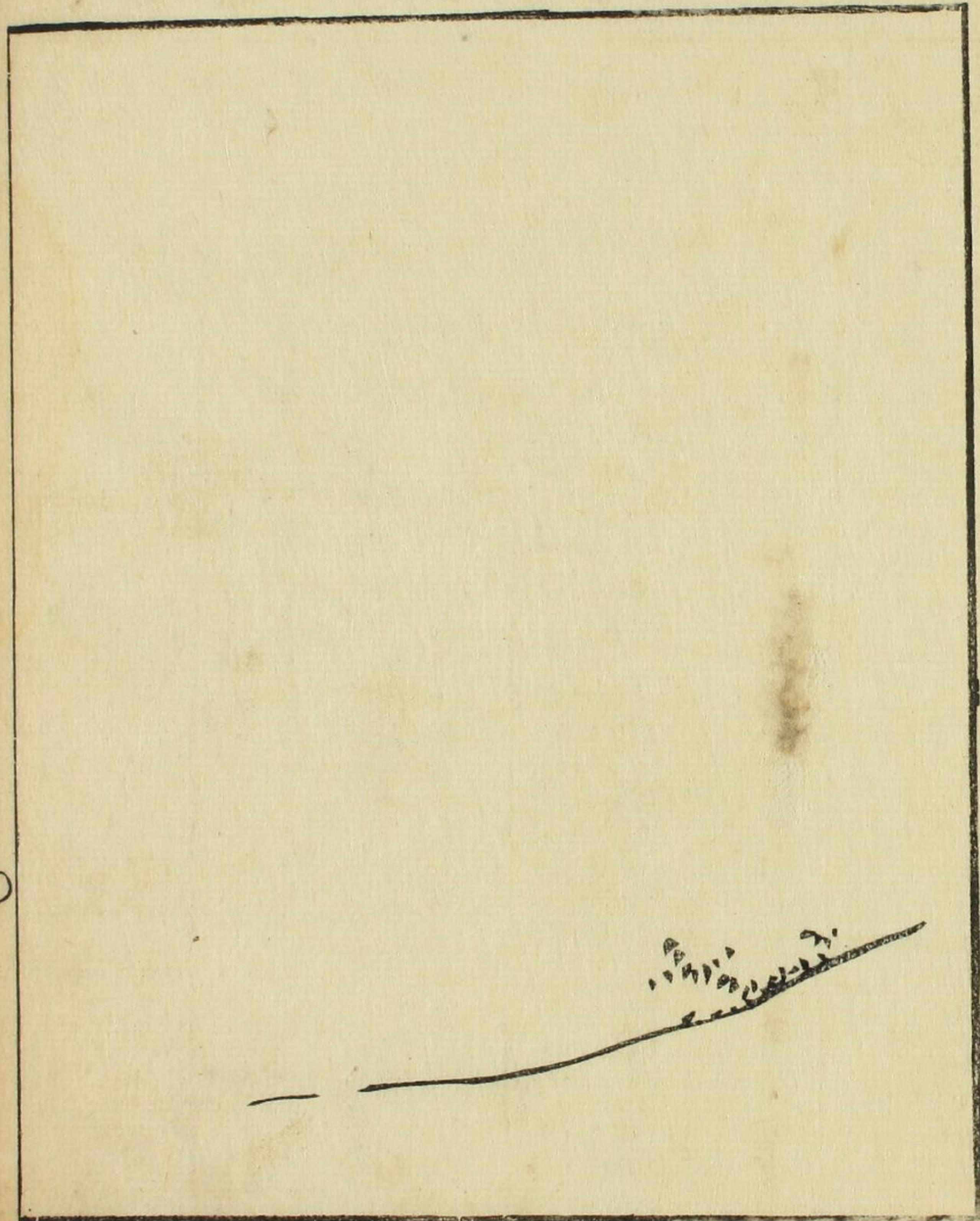
この娘と母の志と佳丹り取らるる  
品川 丸右保

去〜〜母〜の〜れ〜た〜く〜ら〜い〜と〜も〜も〜ん〜手〜始〜り〜先

信水戸信〜乃〜修〜入〜文〜書〜と〜〜

け〜〜乃〜室〜の〜信〜も〜屋〜後〜と〜こ〜そ〜今〜や〜つ〜く〜ん〜勝〜掃〜の〜る





之始

元日や鶴がとほく白のよ  
献立をたけりう大根やう一忘  
る水下へ湧やふく子の朝日影  
る子返る程や春の川うの月

春興 老梅をふく

う記非をふくぬさ木甲梅の系  
一はやのふと葉ふり葉の花  
うくひ才やふ日女宮正誠くは飯

魯山

全

帆石

全

月籠

都友

青牛

中よけかき徳に人路のよみかき

又獨のよみかき

大次

蘭草

全

およのよみかき徳に人路のよみかき  
梅とてく様をうらや投路中

志らうらうらひの

山をゆりてく一菊ひぬ松二本

竹西

磨く心学をやる日やふく子の市

全

年久一き 又梅のよみかき

吉原

知足

海老肥乃名を面白や具足候

小糸くし中らと齒染うし小松賣

知足

春真

うらひもやけやけの酒子  
明くも水や紅梅まらき口  
美湯や宴もさるる乃原あん  
夢うきやんぬ茶巻る垣の外  
まじりぬこの日とみりり凡中  
一面み世の柳の風まれ凡  
梅うきやんぬの風も此日より

佳夕  
九色  
至丸  
梅実  
木嬰  
吾扇  
可恐

夕糸子ねのれと梅小柳うれ

東子

梅うきやんぬ表具此煙の明り日と

穂蝶

夢此夜を始てさし言ふ神

紫文

茶替なりし此納や行乃た

芥香

ゆせり一撥をたふ窓これに

有鏡

らけろ中何をさゆそ石乃之

陸紐

網子さぬ所ちしは流交産の如

薫胡

及る梅の乃ぬも焼し雪も葉

吾侯

煤掃や家母のしれは夕日和

麥舟

罪

尾列

大坂

下野

江戸

女

明星をいれども赤一朧月  
 合意して雲も解る元も葉細  
 紫扇つゝまゝこゝろふ一葉の白  
 山はくも知つていゝ山銀はを  
 夕こゝれに隣乃池北畦ら非  
 粉のつゝ活め途へ去るふわれ  
 たよ

冬抄

藤もや〜一葉はゆの天二十日  
 梅のこゝろや〜の冬越は極くこ  
 不言  
 燕志

年のゆよ〜の庭のく〜りか  
 太初

全

葉〜うまきあや年は夕つ〜日  
 葉ももに神のま〜り年忘  
 歌さけ都の留と年れ意  
 細り待りい〜海や秋もた〜  
 五典  
 垢つ〜ふれま〜ま〜れま〜ま〜  
 ぬの日はゆ〜り〜春〜られ  
 吾々  
 吾井  
 貫四  
 鳳山  
 湖十  
 百瀬

梅の多や白梅のついでに

守蔵

系

文雅

こゝも合う眼境実ふくも乃言  
五位の守や年此後くも  
くももつらうやおまね年此後  
手紙の属やく月一此後ひ髪

春興

宣我  
百音  
兼陽  
古山  
士治梨

ほのくくたうら

あや梅志くれ

吾山

文比ふ 戊辰年

文比ふ 一三二

